

あくせす news

第 197 号
2018年11月14日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす

伏原神社のお祭りでは、今年も当院の周りを神輿とヤブの一行が通り、祭りばやし
が賑やかに響きました。小祭りが終わると朝夕の風が一層冷たくなり、冬の到来を
感じる今日この頃です。



さて、先生方にはいつも **あくせす** をご利用いただき誠にありがとうございます。
引き続き一層のご利用・ご紹介をよろしくお願いいたします。

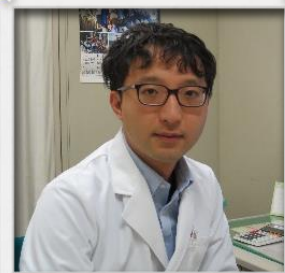
外来医師紹介

外来診察は毎週
火曜日です

広島生まれ、広島育ち、広島大学出身です。現在は広島市内で
の勤務ですが、以前は三原市や廿日市市で勤務していました。

専門分野は内分泌・糖尿病分野です。特に糖尿病治療は、新しい
薬の発売や既存の薬剤の効果の見直しなど、発展も目覚ましい
分野です。薬剤の選択基準も新しい方法が提案されていたり、最
新の知見を治療にいかせるように勉強しています。良いお薬を追
加するだけでなく、過剰な治療は減らしたり、皆さんと話し合
いながら最適な治療を目指していきたいと考えています。

週一回、非常勤での勤務のためご迷惑をおかけすることもある
かと思いますが、呉地区の糖尿病医療に貢献できるよう努力して
いきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



こだま たかや
児玉 堯也（非常勤）

- ★専門分野：内分泌・糖尿病内科
- ★取得資格：認定内科医
- ★趣味：音楽鑑賞



医師会職員旅行

10月21日(日)

報告

本年度の医師会職員旅行は、日帰りの庭園の宿・石亭贅沢グルメブ
ランと1泊2日の由布院旅行があり、私は日帰り旅行に参加しまし
た。当日は晴天に恵まれ、秋とは言っても暑いぐらいの一日でした。

石亭は宮島の対岸にあり、医師会から貸し切りバスに乗り、約1時
間で到着しました。お楽しみの食事の前に少し時間があつたので、隅々まで
丁寧に手入れされた美しい日本庭園を散策しました。庭園には隠れ家よう
な書斎などいくつかのくつろげるスペースがあり、書斎のいすに座ってし
ばらく庭園を眺めていると慌ただしい日常を忘れるほどに癒されました。

懐石料理は季節感に溢れる盛り付けで目と舌で楽しみました。中でも穴子
料理や伊勢えびのお刺身はとても美味しく、中
塚院長先生お勧めの日本酒を飲みながら、お腹
いっぱい贅沢グルメを堪能しました。普段お
話をする機会がない会員の先生や他部署の方々
と楽しく話をする事ができ、充実した一日を
過ごすことができました。



伊勢えびのお造り
旬の盛り合わせ



穴子白焼きと
西京味噌焼き

医事課 石山 和子

★10月1日～10月31日★

※届出日数（地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く）

| 平均入院患者数 | 平均病床利用率 | 平均在院日数※ | 紹介外来患者数 | 医療相談患者数 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 107.2人 | 51.8% | 15.1日 | 81人 | 118人 |



呉市医師会 職員研究発表会《報告》

10月25日(木)

医師会館講堂にて平成30年度の職員研究発表会が開催され、152名の職員が参加しました。今年度は5題の発表があり、日ごろ接する機会のない他部署の発表はどの内容も新鮮で興味深く、発表後は活発な質疑応答が行われました。

今後もこの会を通じ、知識の向上を図ると共に他職種・他部署との連携を深め、より良い医療の提供に努めて参ります。



3人夜勤体制始動

～始動前後の看護師の身体精神面の変化について～

5階病棟

本来心身の休息に適しているといわれる夜間の勤務は心身ともに負担がかかっている。5階病棟では今年の2月より2人夜勤体制から3人夜勤体制になった。そこで変更前後にアンケート調査を行い業務の負担をどのように解決すべきか検討したので結果を報告した。

アンケートの結果より、3人夜勤により身体面、精神面で余裕を確保することができたと考えられる。今後も日々業務改善を行いよりよい看護を提供していきたい。



当院における経腸栄養剤について

栄養科

昨年秋、これまで使用していた経腸栄養剤の終売に伴いアイソカルサポートを新規採用することとした。この経腸栄養剤は排便コントロールの効果が期待でき、低用量で高エネルギーのため注入時間の短縮が可能となり、患者の拘束時間を短縮できる可能性がある。導入後の利点と問題点について3つの症例を挙げて報告を行った。

今後も様々な症例の患者さん一人一人の状態に合わせて対応できるよう情報収集を行い、知識を身につけるよう努めていきたい。



経胸壁心エコー検査で

臨床検査センター

（ゆうしゅ） 疣腫が疑われた2症例

生理検査室

経胸壁心エコーを技師が施行するようになり数年経過し、はじめて疣腫が疑われる症例を経験したので発表した。2例の症例のうち1例は専門医療機関にて感染性心内膜炎と診断された。感染性心内膜炎は全身性敗血症性疾患で適切な治療が行われなければ死に至る疾患である。

経胸壁心エコーは非侵襲的で繰り返し可能であり、技師の施行が可能である。基礎心疾患のない患者であっても感染性心内膜症の可能性を念頭におき疣腫の検出に努めていきたい。



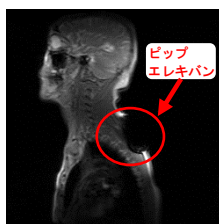
診断、読影に悪影響を及ぼす

金属類等の対策について 放射線科



一般撮影・CT検査・MRI検査の画像診断に影響を及ぼす異物や金属類の説明と、金属類のアーチファクト及びその画像を提供するための工夫を実際の画像を用い発表した。

今後も診断能の高い画像を提供するために、患者さんへの注意事項の説明や検査前の問診票の確認を徹底し、可能な限り検査に影響を及ぼすものは取り除くよう努めていきたい。



乳癌自壊創の創傷管理

薬剤科・看護部



乳がんの終末期にがんが皮膚に浸潤・転移し、その発育した腫瘍が壊死し潰瘍を形成することがある。患者は肉体的、精神的苦痛を強いられ、QOLは低下する。乳がん皮膚浸潤の自壊創の管理について、皮膚・排泄ケア認定看護師と薬剤師が共同し早期に対応した結果、軟膏処置・創洗浄による壊死組織の除去が促進され、患者のQOLが向上した症例を発表した。

今後も多職種が個々の専門性を活かした連携を行いよりよい医療の提供に努めたい。

